

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス ともともびじょん		
○保護者評価実施期間	令和7年11月15日		～ 令和7年11月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	41	(回答者数) 23
○従業者評価実施期間	令和7年11月15日		～ 令和7年11月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月6日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童指導員、保育士、公認心理士などの専門職が連携し、子どもひとり一人の発達段階や特性に応じた支援を行っている。個別支援計画に基づき、ビジョントレーニングや感覚統合運動等の活動を取り入れながら、見る力や身体の使い方など基礎的な力を育て、学習や生活につながる力を育てる支援を行っている。	子どもの様子を丁寧に観察し記録を行いながら(見る力のアセスメントを定期的に行う)、子どもの成長や課題を把握しながら個別支援計画に反映し支援内容の見直しや活動の工夫を行っている。また、感覚統合運動やビジョントレーニングなどの活動を組み合わせ、楽しみながら取り組める活動内容を工夫している。	職員間での情報共有やカンファレンスを継続、職員研修や事例検討を通して専門性を高め、子どもの発達に合わせた支援の質の向上を図っていく。
2	保護者や学校との連携を大切にし、子どもの様子や課題について情報共有を行いながら継続的な支援を行っている。	保護者との面談や相談を通して家庭や学校での様子を共有しながら、子どもの状況に応じた支援につなげている。また、職員間でも情報共有を行い支援内容を検討している。	学校や関係機関との情報共有を大切にしながら、子どもが安心して生活や学習に取り組めるよう支援体制を図っていく。
3	子どもが安心して活動できる環境づくりを大切に、一人ひとりが自分のペースで主体的に活動に取り組める支援を行っている。	活動の中でビジョントレーニングや感覚運動を取り入れながら、子どもが楽しみながら取り組める活動内容を工夫している。	子どもの特性や課題に応じた支援方法を検討しながら、より充実した支援につなげていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	避難訓練や各種マニュアルの周知について、保護者への周知方法が十分でない部分がある	各種マニュアルの整備や訓練は実施しているが、保護者への周知方法が十分ではない部分があった	避難訓練や安全管理に関する取り組みについて、提示や資料配布などを通して保護者へ分かりやすく周知していく
2	学校や関係機関との連携について、情報共有の機会をさらに充実させていく必要がある	学校との連携については、必要に応じて実施しているが、全体として定期的な情報共有の機会を設けるまでには至っていない	学校との情報共有についても、日常的な連携は行っているが、定期的な情報共有の機会をさらに充実させていく必要がある
3	事業所の取り組み方や支援内容について、保護者へより分かりやすく伝えていく必要がある	日々の支援の中で説明は行っているが、事業所としての取り組みや活動内容について、保護者へ分かりやすく伝える機会が十分ではない部分があった	活動の様子や支援内容について、提示や資料等を通して保護者へ分かりやすく伝えていく